

解 禁

ラジオ・テレビ・インターネット

令和6年6月24日 17時00分以降

新聞

令和6年6月25日 朝刊以降

写真データあり

令和6年6月13日

市政記者クラブ 様

教育委員会生涯学習部文化財保護課

担 当：瀬瀬、林（順）

電 話：972-3269

（文部科学省記者クラブ、愛知県と同時発表）

史跡の追加指定について

下記の物件につきましては、国の文化審議会（会長 しまたに ひろゆき 島谷 弘幸）より、史跡の追加指定について、6月24日（月）に文部科学大臣に答申される予定ですのでお知らせします。

記

1. 史跡の追加指定

名称	所在地	指定面積
だんぶさんこふん 断夫山古墳	名古屋市熱田区旗屋一丁目 1014 番地	既指定面積 14,694.05 m ² 今回追加指定面積 8,499.42 m ² 合計面積 23,193.47 m ²

2. 概要・追加指定の理由

古墳時代後期前半に築造された、墳丘長 150m を測る東海地域最大の前方後円墳。墳丘の遺存状況が良好で価値が高い。近年、名古屋市教育委員会と愛知県が共同で実施した発掘調査において、墳丘の周囲を巡る周濠や周堤の痕跡等の遺構が確認されたことから、墳丘周辺の遺構が残存する範囲の追加指定を行い、古墳のより一層の保護を図る。

〈参考〉

名古屋市内ではすでに、国史跡 6 件（うち、特別史跡 1 件）が指定されています。今回は追加指定のため、件数に変更はありません。

断夫山古墳の概要・追加指定の理由

断夫山古墳

所在地	名古屋市熱田区旗屋一丁目 1014 番地
指定面積	既指定面積 14,694.05 m ²
	今回追加指定面積 8,499.42 m ²
	合計面積 23,193.47 m ²

【概要・追加指定の理由】

断夫山古墳は、名古屋城を北端とし、南方に舌状にのびる熱田台地の南端西縁辺（標高 5～6 m）に所在する。築造は 6 世紀前葉で、県下最大かつ東海地方においても最大級の規模を誇る前方後円墳である。また全国的に見ても同時期の古墳では、ヤマト王権¹の大王墓と考えられている今城塚古墳（大阪府高槻市）に次ぐ規模である。1987（昭和 62）年にはその学術的・歴史的価値が高いとされ、史跡に指定された。

2020（令和 2）年から 2022（令和 4）年には、将来にわたる保存と活用を図るため、愛知県と名古屋市教育委員会が共同で古墳の周囲において発掘調査を実施した。発掘調査の結果、古墳の周囲を廻る周濠²や周堤³の痕跡等の遺構が確認され、周濠からは埴輪⁴や須恵器⁵の破片等の遺物が多く出土した。開発の進んだ名古屋市の都市部において、この規模の前方後円墳が良好な状態で残っていることは大変貴重であり、より一層の保護を図るため、墳丘周辺の遺構が残存する範囲を対象に追加指定されることとなった。

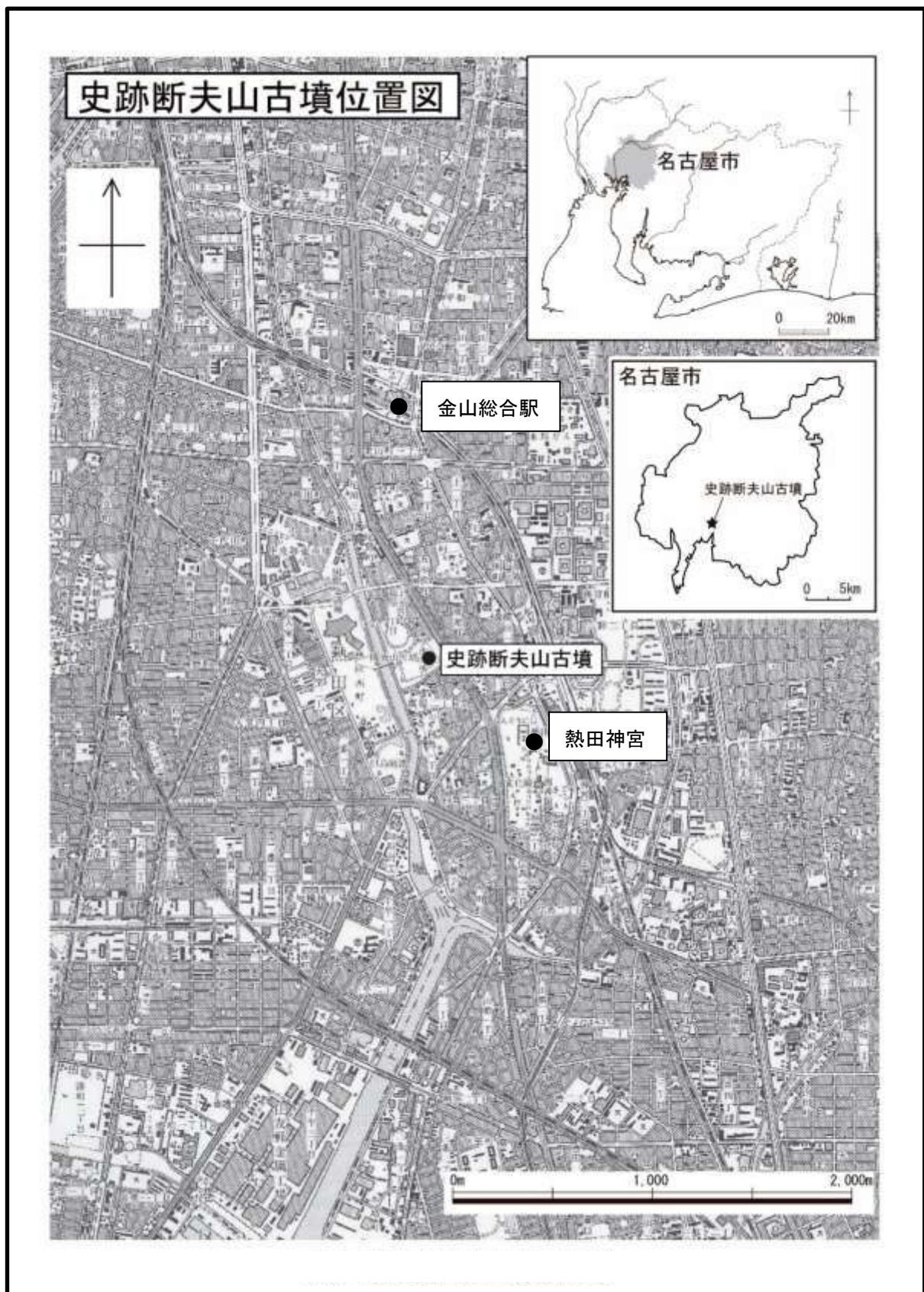
¹ ヤマト王権：3 世紀後半以降に奈良盆地で成立した王権力

² 周濠：古墳の墳丘周囲に掘削される濠

³ 周堤：周濠の外側に構築される堤

⁴ 埴輪：古墳の墳丘上や周囲に樹立される焼き物

⁵ 須恵器：5 世紀以降に窯を用いて生産される陶器



断夫山古墳の位置



指定範囲を示す図

※今後保護を要する範囲

将来的には史跡等として指定し、保護する必要がある範囲のこと。



写真1 断夫山古墳の全景（西上空より）



写真2 周濠確認状況（北西から）



写真3 周濠から出土した埴輪片

写真1～3については、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターより提供を受けた。

名古屋市内的における国指定史跡

- ・ 名古屋城跡 （中区） ※特別史跡
- ・ 八幡山古墳 （昭和区）
- ・ 大高城跡 附丸根砦跡 附鷲津砦跡 （緑区）
- ・ 大曲輪貝塚 （瑞穂区）
- ・ 志段味古墳群 （守山区）
 - 白鳥塚古墳
 - 尾張戸神社古墳
 - 中社古墳
 - 南社古墳
 - 志段味大塚古墳
 - 勝手塚古墳
 - 白鳥古墳群
- ・ 断夫山古墳 （熱田区）